



特集 ふれあい体験! いしだけ動植物園

昭和36年の開園以来、市民の皆さんに親しまれ続けている市亜熱帯動植物園(愛称: いしだけ動植物園)。4月に「ふれあい体験広場」がリニューアルオープンし、動物たちと触れ合えるイベントが増え、子どもたちにも大好評です。今回は4月以降にできた新しい施設や、新たに仲間入りした動物たちなどをご紹介します。

ふれあい体験広場!

「子どもたちが動物にもっと興味を持ち、命を感じられる施設」を目的に整備された「ふれあい体験広場」。プリーリードッグの放飼場やモグラの行動展示場が設置された「土の城」、ウサギやモルモットと触れ合える「リトルガーデン」、放し飼いのヤギやヒツジに餌やり体験ができる広場など、楽しい施設がたくさんできました。

土の城



リニューアルしてひととき目を引くのが、広場中央に小高い丘を模して作られた「土の城」。城の外側では、かわいいミリアキヤットとプリーリードッグを間近で見ることが出来ます。

野生のミリアキヤットは数十頭ほどの群れを形成し、地下に作ったトンネル状の巣で生活しています。日の出と共に巣穴から出て、太陽に向かって尾を支えにして後足で直立し、日光浴する習性があります。草原地帯(プリーリー)に穴を掘って巣穴を作るプリーリードッグも、ミリアキヤットと同じように群れで生活して

います。

城の内部では北部九州唯一となる、モグラの行動展示を見ることが出来ます。

リトルガーデン

季節の草花と一緒に愛らしいウサギとモルモットを見ることが出来ます。これらの動物は暑さに弱いため、手作りの日よけを設置しています。

ふれあいステージ



大きな白い屋根が目印の「ふれあいステージ」。ヒツジの毛刈りや小動物とのふれあい体験など、さまざまなイベントを実施しています。約90人が座れる観覧席を設けていますので、ひと休みなどにもご利用ください。

このほか体験学習などに利用できる「多目的ホール」や、バリアフリー仕様の「多目的トイレ」、「授乳室」なども新設しています。

多目的ホールの「ツシマヤマネコ紹介コーナー」



- ふれあい体験広場で動物たちに触れてみよう**
- 1 モルモットを大切そうにひざに乗せる子どもたち
 - 2 かわい顔のぞかせるプリーリードッグ
 - 3 日光浴するミリアキヤット
 - 4 好奇心が強く、窓ガラス越しに子どもたちを見つめるミリアキヤット
 - 5 ソウガメの大きい甲羅に触れる子どもたち
 - 6 愛らしいアヒルに笑顔がこぼれる来園者
 - 7 放し飼いをしているヒツジ
 - 8 ウサギの動きを熱心に観察する子ども

◎ふれあい体験イベントは主に土・日曜、祝日に実施していますが、動物の健康状態や天候によって一部中止になる場合があります。開催時間など詳しくは入園時に受け付けて配布しているチラシや、園内放送などでご確認ください。

野村園長に今後の運営方針などについて聞きました

園長
インタ
ビュー

命を守り、育み、 つないでいくことの 大切さを伝えていきます

わたしは、いしだけ動植物園の園長という職を通して、次代を担う子どもたちに、何よりも「命の尊さ」を伝えたいと思っています。

すべての生き物は「食物連鎖」という関係の中で、生きるためにエサを捕ったり、敵から身を守ったりしながら懸命に生きています。わたしたち人間もほかの生き物たちと同じで、いろいろな命とつながっているからこそ、生きることができます。

そうしたことを伝えていくため、園の運営においては、単に生き物たちの珍しさやかわいさだけを見せるのではなく、「多種多様な生き物の命を、保護や繁殖などを通して、守り、育み、次の命へつないでいく」、そのような取り組みを分かりやすくお見せしていきたいと思っています。

ことしは「国際生物多様性年」でもあり、生物の多様性についてのさまざまな企画や展示を催し、いろいろな目線で命の尊さを伝えていきます。そして、皆さんに生き物たちの存在や生態をもっと身近に感じていただき、動物たちとゆっくりと触れ合ってもらえるような場を提供していきたいと思っています。

きる場を手作りします。このほかにも来園者にライオンの放飼場に入ってもらい、隠したエサをライオンに探させる「お肉はどこだ！ライオンさんにいじわる！」や、昔懐かしい「ザリガニ釣り体験」など、当園ならではの楽しいイベントをたくさん開催します。毎年好評の「YORU☆DO！」(わくわく夜の動植物園)も8月中の土曜日とお盆の時期に開催予定です。ことしの夏は動植物園で思いっきり楽しんで、暑さを吹き飛ばしてください。

※8月のイベントは本紙14ページでも紹介しています。

愛される動植物園づくりに努めます

動植物園では、これからもスタッフ一丸となって、皆さんに愛される動植物園づくりに努めていきますので、お気付きの点などがありましたら、近くのスタッフに気軽に声を掛けてください。たくさんの皆さんのご来園を心からお待ちしております。

佐世保市亜熱帯動植物園 園長 野村 成人

夏は楽しいイベントがいっぱい

ことしの夏はこれまでとは一味違ったイベントを実施します。その一つ目は「アクア！オン・ザ・グラス」。ミストやスプリングラーを使って、芝生の上で水遊びがで



野村園長

市亜熱帯動植物園 ☎28-0011



新たに仲間入り

長崎県固有の動物たち

いしだけ動植物園では、長崎・佐賀県でただ一つの公立動植物園として、県内固有の動物たちの飼育に取り組んでいます。

ツシマヤマネコ(写真①)

国の天然記念物に指定されているツシマヤマネコ。いしだけ動植物園では3月に環境省対馬野生生物保護センター(対馬市)から雄2匹を、5月には福岡市動物園(福岡市)から雌2匹を受け入れ、飼育下繁殖事業に取り組んでいます(一般公開は来年度予定)。ツシマヤマネコは生息数が100匹程度と推定されており、最も絶滅の恐れが高い絶滅危惧種に指定されています。

対馬(写真②)

対馬に生息する長崎県固有の馬で、全国に30数頭しかいない、日本在来馬の一種です。性格はおとなしく、坂道で荷物を運んだり、農耕馬として対馬の人々と生活を共にしてきました。園には、高広(雄、6歳)と豊姫(雌、13歳)の2頭が3月末に対馬からやってきました。豊姫は6

月4日に出産(父親は対馬にいる安高)。赤ちゃんは暑さに弱いため、午前9時の開園から少しの時間だけ一般公開しています。

ツシマジカ(写真③)

対馬に生息するニホンジカの一種。森林や草原に生息し、群れで生活しています。木の実やさまざまな草を食べ、原始的な特徴を残していると言われています。2年前、対馬で赤ちゃんの時に保護され、園にやってきた「まるちゃん」は、現在福岡から来た雄ジカとお見合い中です。

対馬地鶏(写真④)

対馬在来の家禽(家畜の鳥)です。雄雌ともに頸に毛があるのが特徴です。この原種は長崎県農林技術開発センターで維持管理されています。体験広場の完成に伴い、新しく仲間入りしました。